

群 教 ゼ	F12 - 01
	平15.216集

「調べ学習べんりブック（Web版）」 の作成と活用

－ 調べ方を身に付けさせることに視点を当てて －

特別研修員 田野 洋一（榛名町立第五小学校）

<<研究の概要>>

本研究は、児童が円滑に調べ学習を行うことができるように、調べるときの様々な方法、対人関係に関わるマナーの習得、その他有効利用できる情報や資料を整理分類し、児童の発達段階や学習過程に応じて活用ができる「調べ学習べんりブック（Web版）」を作成したものである。児童がこの「調べ学習べんりブック（Web版）」を活用し、調べ方を身に付けることによって、自ら持った課題の解決に役立てられるようにした。

【キーワード：情報教育 小学校 調べ学習 主体的学習 総合的な学習の時間】

主題設定の理由

現在、「生きる力」の育成が強く求められている。「生きる力」とは、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」「他人を理解して共感、協力する能力」と、中教審答申において定義されている。

生きる力の中の「自ら学び、自ら考える」ことの活動の一つに調べ学習がある。調べ学習とは、自ら持った課題を解決するものである。その過程には、「課題を持つ」「調べる」「まとめる」「発表する」などが挙げられるが、その中でも「調べる」ことは学習過程の中で大きな部分を占める。このことから、小学校段階では調べる力の育成に焦点を当てた活動をするのが大切である。

本校の児童が調べ学習を行う上での課題は、どのような調べ方があるのか、その具体的な方法はどのようなことであるかということを経験がつかないということである。児童は、調べ学習を行うとインターネットや本を活用しようとする。しかし、それが課題解決のための最良の方法であるという判断から活用しているわけではない。

そのために、本校では、調べ学習における冊子版マニュアルがあり、3年生から活用できる。しかし、文章が中心であることやマニュアルを使って方法等を知るといった経験に慣れていないことが原因から、活用の意欲が高まらない状況である。

そこで、本研究では、調べ学習におけるマニュアルをWeb版にして作成する。このWeb版マニュアルを活用することによって、児童に必要な調べ方の習得を支援していく。様々な調べる方法について提示し、各方法の良さが分かり、各自が課題解決の目的に応じて最良の調べ方を選択できるようにする。その他にも、資料収集のときにリンク集や図書データベースなどを活用できることやインタビューをする際のマナーなどを学ぶことができるようにする。

以上のことから、この「調べ学習べんりブック（Web版）」を作成し、児童に活用させることは、調べ方を身に付けさせる手助けとなり、その力がつくことによって、各教科等において意欲的に調べ学習に取り組み、自ら持った課題の解決に役立てることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

調べ方を身に付けさせるために、調べ学習に関わる様々な方法、資料を提示した調べ方マニュアル「調べ学習べんりブック（Web版）」を作成する。

様々な調べる方法などを提示した「調べ学習べんりブック（Web版）」が、児童の調べ学習に役立つものであったかを授業実践を通して明らかにする。

研究の見通し

調べる方法、資料など有用なコンテンツを収集・作成し、見やすいように分類・整理して提示すれば、様々な調べ方を知り、具体的な方法がわかるマニュアルが作成できるであろう。

この「調べ学習べんりブック（Web版）」を使うことによって、児童が目的に応じた調べ方を身に付ける手助けとなり、自ら持った課題の解決に役立てることができるであろう。

研究の内容

1 「調べ学習べんりブック（Web版）」の概要

(1) 作成・活用の方針

この「調べ学習べんりブック（Web版）」は児童に様々な調べ方を身に付けさせるために、特に2つの事柄についてサポートできるように作成した。

一つ目は、様々な調べ方の提示と調べ学習に関わるインターネット活用のためのリンク集、検索方法、図書の検索などの資料集である。

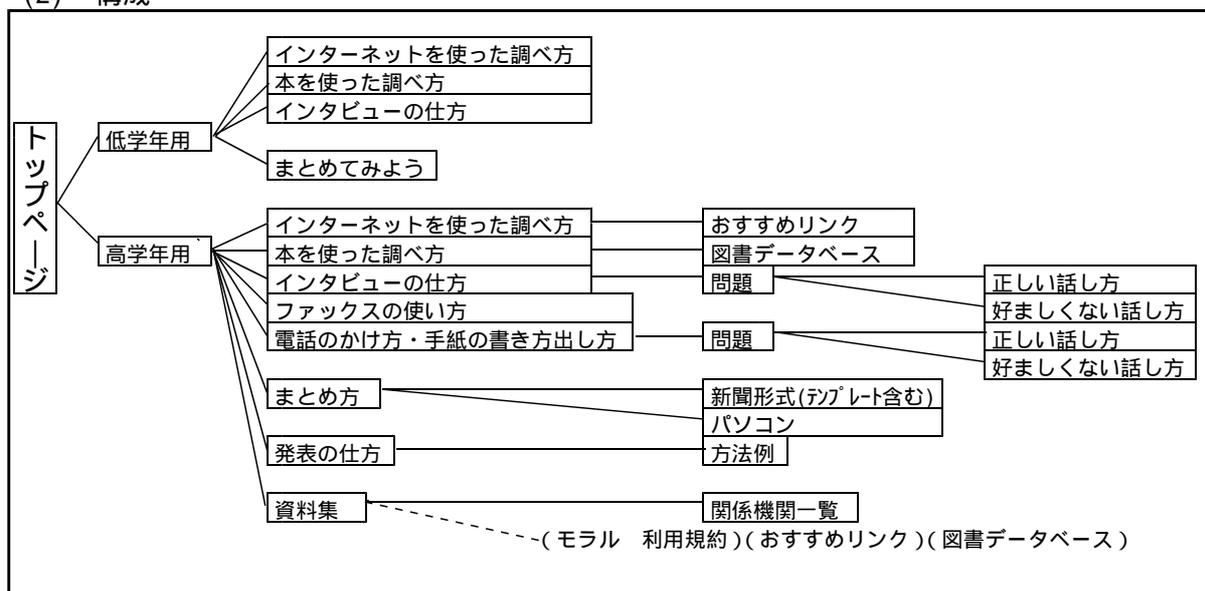
二つ目は、調べ学習に関わるインタビューや電話など対人関係におけるマナー面である。

これらのことを発達段階に応じて活用できるよう、低学年・高学年用の2つの段階に分けた。

また、児童のコンピュータ操作の技能にも配慮し、扱いやすくするようにクリックのみで操作ができ、音響や画像の効果を取り入れ、楽しく学習できるように配慮して制作した。

本校のコンピュータの整備状況は、パソコン教室に20台のみである。そのために、このマニュアルを各個人がいつでもどこでも必要に応じて使用できない。そこで、現段階においては冊子版マニュアルとこの「調べ学習べんりブック（Web版）」を併用して活用させたい。

(2) 構成



2 「調べ学習べんりブック(Web版)」の内容

(1) 低学年用と高学年用モード

このマニュアルは低学年用と高学年用に設定してある。これは、発達段階に応じた調べ方の習得をねらったものである。概ね、低学年用を1～3年生、高学年用を4～6年生に構成してある。

低学年用については、単に漢字にふりがなをつけたりやさしい言葉に置き換えるのではなく、低学年において「調べ学習」を行う場合に高学年と同様に必要であるスキルを盛り込んだページ作りを行った。基本的に低学年においては調べ学習という形態はあまりとられていない。強いていえば、インタビューすなわち「聞く」という活動によって情報を得ることが主となるであろう。しかし、このマニュアルを見ることによって活用できる発達段階であれば積極的に他の方法についても活用させていきたい。

また、状況によって高学年が低学年用を使う場合も考えられる。そのために、両学年のインデックスをフレーム化し、どちらの学年も見られるようにした。

(2) インターネットを用いた調べ方

インターネットを用いた調べ方については、まず検索エンジンを用いた検索の仕方を表示した(図1)。

基本的な使い方の提示の他に、検索語の工夫について提示した。これは、児童は知りたい言葉をそのまま入れ、検索することが多く、的確な情報を得ることができないことが多い。そこで「単語」スペース「単語」などの検索方法を提示した。

リンク集(図2)については、児童が使いやすいように、教科別や多様なジャンルから、有用サイトにリンクできるようにした。

しかし、子供向きではなく、わかりやすいものではない場合も多い。そこで、各都道府県の情報収集については子供向きのサイトにリンクできるようにした。

何よりも情報は日々更新されていくわけである。常に有効活用できそうなWebページを探しリンクしていく必要がある。

(3) 本を使った調べ方

本を探す手だてとして、本校の図書室のデータベースを掲載したページを作成した。

本校図書室のデータベースについては、図書室内の配置図(図3)から分類データベース検索(図4)ページ



図1 検索方法

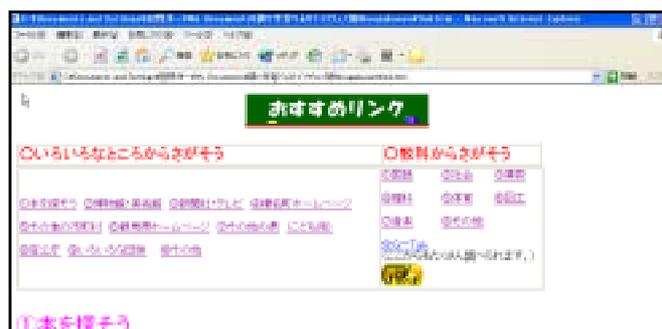


図2 リンク集

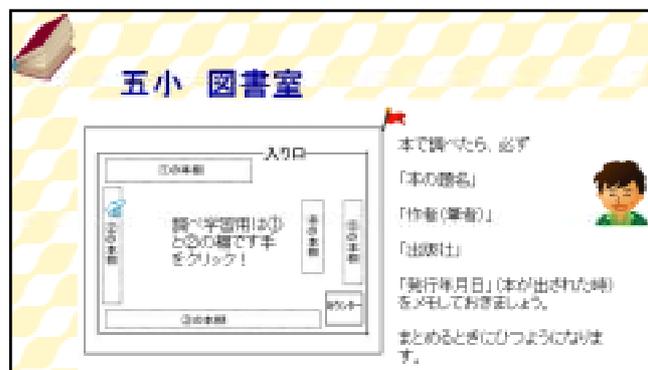


図3 図書室データベース入口

そこで、このシミュレーションを用いてしっかりとマナーを身に付けさせることを目的とした。

(5) ファックスの使い方

その他の調べ方にファックスを使う方法がある。図9のようにファックス原稿の書き方を提示するが、ファックスを相手に送ればよいわけではない。必ずその前に電話などで了解を得る活動があり、事後にも手紙や電話を使ってお礼を述べるという活動がある。そこで、ファックスの使い方のページから電話・手紙のページへのリンクをはり、ファックスを送る活動においてもいろいろな活動が関連することを学ばせる。

(6) その他

この「調べ学習べんりブック(Web版)」には、関係諸団体等の一覧、「まとめ方」、「発表の仕方」、「情報モラル関連」の項目ページがあり、調べている活動時に必要なもの、調べた後の活動についても対応できるようなものとなっており、児童の活動が様々な場所において、教師による個別対応が難しい場合にも、各自が活動できる内容となっている。

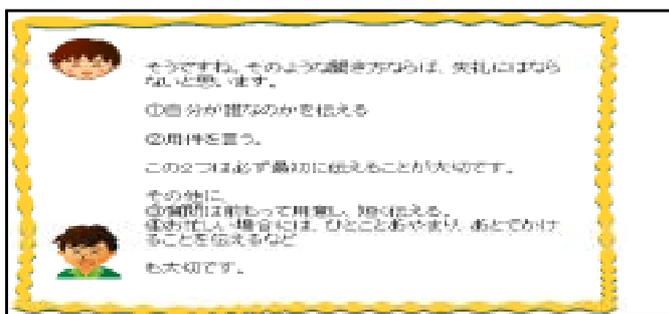


図8 シミュレーション例(正しい話し方)



図9 ファックスの使い方

3 実践の結果と考察

(1) 実践1 第4学年 総合的な学習の時間 単元名「花と水から榛名町を見つめよう」指導計画

時間	主な学習活動	学習への指導と支援 (Webマニュアル関連: 太字)
5	・各自が自分の課題を設定する。	・理科や社会の学習から課題を想起させる。
5	・各自が活動計画を作る。	・できるだけ具体的な計画を立てさせる。
35	・各自が計画にそって調べ学習を行う。	・「調べ学習べんりブック(冊子版)」を参考にしながら活動させていく。
3	・中間発表会	・わかりやすく説明できるようにさせていく。
30	・各自が計画にそって調べ学習を行う。 途中、各自の調べ方の方法などを振り返る。	・「調べ学習べんりブック(Web版)」の使い方を学ぶ。 ・「調べ学習べんりブック(Web版)」を使い、調べ方について学ぶ。
20	・研究の成果をまとめる。	・「調べ学習べんりブック(Web版)」を使い、まとめ方について参考にし、まとめていく。
5	・研究の成果の発表会	・「調べ学習べんりブック(Web版)」を使い、発表について参考にする。
2	・学習を振り返る。	・1年間の学習について良かった点、改善する点を考えさせる。

授業における児童の様子

この単元では、各々が花や水に関する自己のテーマについて調べるものである。「調べ学習べんりブック（Web版）」を使用する前に冊子版マニュアルを使用しながら方法を探り活動していたが、「調べ学習べんりブック（Web版）」を導入するにあたって、自分の調べ方について活動を振り返らせた。その時の振り返ったことについて各自に書かせたところ、児童が今までにとった情報収集方法は、インターネットや本を用いたものがほとんどであった。さらに、「本を探す際にも書棚の本全体から探していた。」「インターネットについても検索エンジンから膨大な Web ページを閲覧し必要な部分を探していた」と、必要な情報を得るのに時間がかかり学習の目的が達成できないことが多くあったことが分かった。

この「調べ学習べんりブック（Web版）」を使った全体指導を行ったところ、インターネットや本を使った調べ方において、必要な情報を簡単に得ることができるようになった。また、それ以外の具体的な方法が分かり、今までよりも情報を集める活動が容易になった（図10）。

インタビューや電話など対人関係に関わるものに関しては、「調べ学習べんりブック（Web版）」を見ながら練習し、冊子版マニュアルを見ながら実際に電話をするなど複合的な活用の場面も見られた。



図10 リンク集の活用

実践の考察

この授業実践を通して、児童は「調べる」活動はインターネット、本だけではなく、ファックス、電話など多様な方法があるということを知ることができた。今までにおいても漠然とは冊子版マニュアルから知っていたはずである。しかし、「調べ学習べんりブック（Web版）」によって多様な方法について再認識ができた。それは、Web版ということから視覚的にもとらえやすかったからであろう。

そして、それぞれの具体的な方法についても知ることができた。

例えば、インターネットや本の活用では、欲しい情報を的確に得るための検索方法を知ることができた。それは、分類別検索を活用することで自分が欲しい情報を今までよりも早く得られるようになったからである。

インタビュー、ファックス、電話においても方法を知るとともに、最低限必要なマナーについても知ることができた。

「調べ学習べんりブック（Web版）」は単元途中での導入であったが、導入前よりも調べ方を身に付け、課題解決に役立てられるようになったと言える。

(2) 実践2 第4学年 社会科 単元名「わたしたちの群馬県」

授業における児童の様子

この単元では、「榛名町の県内における地理的位置」「県内各市町村の地形や産業」などを様々な資料を活用して調べ、県の特色を考えることをねらいとしている。

児童の主になる活動は、各自が選んだ市町村についてその特色を調べていくものである。

その活動において、リンク集内の各市町村の Web ページの活用における情報収集や、実際に市町村の関係機関に電話をし、聞き取り、ファックスによる資料請求を行うことなど「調べ学習べんりブック（Web版）」の活用が図れた。

この実践は、総合的な学習の時間において「調べ学習べんりブック（Web版）」を使った学習後のものである。この実践までに様々な調べ方を知り、具体的方法を理解しつつあることから、児童にできるだけいろいろな方法を使ってみようとする姿勢が見られるようになった。

また、「調べ学習べんりブック（Web版）」の使用になれてきたこともあり、教師が対応できないときでも、各自が「調べ学習べんりブック（Web版）」を見て、調べる方法の選択をするなど自主的な活動が見られるようになった。

実践の考察

この実践では、ある程度調べ方が以前よりも身に付いてきた段階におけるものである。

リンク集から市町村の情報を集め、その内容についてわからない言葉があれば図書データベースから必要な本を探して調べる。そして、足りない部分については電話やファックスを用いてみるなど多様な方法から自分の課題に適した資料を収集できるようになった。このことから、自分の目的に応じた調べ方を選択し、自らの課題を解決していく力が養われてきた。

以上のことから、「調べ学習べんりブック（Web版）」の活用は、目的に応じた調べ方を身に付ける手助けとなり、自ら持った課題の解決に役立てることができることがわかった。

研究のまとめと今後の課題

本研究において児童は、「調べ学習べんりブック（Web版）」を使うことによって、様々な調べ方を知り、各方法について具体的な理解をするきっかけをつかむことができた。そして、各自の目的にあった調べ方の選択ができるようになり、自己の課題解決に向けて以前よりもより計画的になってきた。これからさらにこのような学習課程をふむことによって各自の調べる力が高まっていくことであろう。今回検証はできなかったが、年間を通しての活用、また数年に渡る活用においてさらに調べる力の高まりが期待できるであろう。

課題としては、リンク集や図書データベースなど、随時最新のものに更新していくことが挙げられる。具体的には、身近な地域に関する情報、教科書に準拠させたものなどを新たに加筆していくことなどである。

活用については、いつでも使えることも前提であるが、単元中において効果的に活用できそうなところを考え、教科によっては年間指導計画に位置づけるなど積極的な活用も今後考えていきたい。

< 参考・引用文献 >

- ・ 研究報告書 第203集 群馬県総合教育センター（2002）